

学校名（ 室戸市立羽根小学校 ）

〔学校目標：人間性豊かで、行動力のある、心身ともに健康な児童の育成〕

〔研究主題：「豊かなかかわりを大切にして、自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」～いきいきと学び合う授業の工夫～〕

評価(A:目標を十分に達成 B:ほぼ達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

評価項目	中・長期経営目標	短期経営目標	取組内容	評価指標	自己評価			学校関係者評価	
					達成状況	評価	改善方策		
確かな学力	○児童の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本の定着と向上を図りながら、「生きる力」の基礎を培う。	○ふり返りのさせ方・書かせ方・活用方法を改善して質的に向上する。 ・毎時間のふり返りを書く時間保証 ・前時のふり返りで不十分だった点を次時の指導で確実に補充 ・外国語の振り返りを評価に関連させる ○記述形式の問題の正答率を全国平均以上にする。 ・活用学習の取組徹底 ・課題の工夫と時間確保 ○対話力の下支えとなる語彙力を高める取り組みを実施する。 ・全学年で音読強化週間の設定と実施 ・音読発表の機会設定と実施	〔授業力向上〕 ①②③④⑤取組の確実実施 ・「英語で自分のことや意見を発表することが楽しい」80%以上 ・授業力チェックシートにおける「授業で学んだことを自分の力でふり返りに書けているか」90%以上 ・「進んで授業や活動に参加している」95%以上 ⑥研究個人ファイルの活用と随時取組を職員室に掲示 〔活用力向上〕 ①各学力調査の分析・活用 ②思考の深まる「あしあとノート」の継続 ③「活用学習」の取組徹底 〔対話力向上〕 ①「話し型」リストの活用 ②「話し方名人・聞き方名人」の取組 ③対話力向上をめざす言語活動の取組：音読による音声の意識化 ④語彙力向上：「辞書引き検定」実施：辞書の日常的な活用 ⑤読書意欲向上をめざす読書活動	〔授業力向上〕 ①②③④⑤取組の確実実施 ・「英語で自分のことや意見を発表することが楽しい」80%以上 ・授業力チェックシートにおける「授業で学んだことを自分の力でふり返りに書けているか」90%以上 ・「進んで授業や活動に参加している」95%以上 ⑥研究個人ファイルの活用と随時取組を職員室に掲示 〔活用力向上〕 ①学力調査についての分析・活用取組の確実実施 ・活用問題取組実施100% ②「あしあとノート」の提出率100% ③チャレンジタイムでの「活用学習」の確実実施 〔対話力向上〕 ①対話力・語彙力の向上を目指す ②10ターン以上対話ができる」77% * 3学期は対話朝礼を低・高学年で分け、内容をレベルアップさせたため数値としては下がった。 ③「読書が好きである」85%「国語辞典の活用」78% * 辞書をすぐ活用できるようにしたので、今後も伸びが期待できる。 ・全学年で音読強化週間の設定と実施100%・音読発表の機会設定と実施100% * 対話・音読朝礼で言葉の世界が広がり、表現することを楽しむ姿が見られるようになった。	B	〔授業力向上〕 ・今後も羽根小授業スタンダードを基本に授業改善を行う。 ・振り返りが書ける課題設定の工夫と価値づけを引き続き行っていく。 ・進んで参加したくなるような必然性のある課題設定を意識した授業づくりを行っていく。 〔活用力向上〕 ・根拠にもとづいて考えを述べることに対応できるようさせる取組を行っていく。 ・記述問題を意識して、必要な用語やキーワードを使って自分の考えをまとめることに慣れさせる。 ・今後も単元の最後に活用問題に取り組む。 〔対話力向上〕 ・10ターン以上の対話については検討していく。 ・対話朝礼を低・高学年で分けて、話し合い活動的にするなど内容をレベルアップしていく。 ・辞書が直ぐに活用できる環境の整備と辞書引き検定の取組を継続する。 ・音読朝礼で他学年からの刺激を意欲につなげ、表現を楽しめるようにする。	・学力向上に向けて子どもたちと先生方がそれぞれによく取り組んでいると思う。 ・現代の子どもは記述形式が苦手と言われていながら正答率は全国平均以上にするという目標がすごい。先生たちのやる気と意気込みを感じる。 ・学力が向上していることが、全国や県の学力調査で全国平均を上回っていることわかる。先生たちの努力がうかがえる。 ・会話が携帯で簡単に済んでしまうご時世のなか、10ターン以上の対話力を目指し取り組んでいるのはすばらしい。 ・あしあとノートや外国語の取組がよくできている。発表会の内容等も年々向上してとても良い。	A	
豊かな人間性	○地域の実情と児童の実態をつかみ、教師と児童、児童相互の人間関係を深め、仲間を大切に教育をめざす。	○授業と生活との関連をより意識した授業を実施し、アンケートで成果を確認する。 ・学期1回のアンケート数値が向上する。 ○活動後の児童の振り返りを見取り、適時フィードバックすることで意識の変容につなげる。 ・肯定的記述が90%以上になる。 ○いろいろな人の良さに気づき仲良くする。 ・アンケート数値が年度初めより向上する。	〔道徳教育の充実〕 ①道徳科の公開授業、実践報告、評価の研究 ②道徳科の評価についての研修、情報交換 ③重点教材を選び、実生活との結びつきを意識した授業を実践する。 〔生徒指導の視点を取り入れた特別活動の充実〕 ①縦割り班活動、異学年交流、保小交流活動の工夫と実践 ②児童の主体的な活動を取り入れた特別活動の実践 ③活動後の振り返りとタイムリーなフィードバック 〔他者理解の取組・いじめの防止〕 ①いろいろな人との関わりを大切に学習や体験の工夫と振り返りのフィードバック ②『まなざしの共有』の徹底 （校内支援委員会、職員会での情報共有）	〔道徳教育の充実〕 ①全学級で公開授業、実践報告実施 ②評価についての研修の実施と実際の評価の情報交換実施（年2回） ・授業と生活の関連アンケート結果は、3学期全学年の肯定的評価は67.1%であった。 * 2学期のアンケートが揃わず、教職員の意識を高めることができなかったことが最も大きな課題であった。 〔生徒指導の視点を取り入れた特別活動の充実〕 ①学校生活アンケート肯定的評価90% ②異学年交流、保小交流の全学年での実施 ③活動後の振り返りとフィードバックの継続実施と肯定的記述の割合90% 〔他者理解の取組・いじめの防止〕 ①人間関係に関するアンケートの結果が年度初めより向上する ②Q-U承認群全校平均70%	〔道徳教育の充実〕 ○授業と生活との関連をより意識した授業実施とアンケートで成果確認 ・全学級で参観日に公開授業を行い、実践を報告した。 ・評価についての研修の実施と実際の評価の情報交換を実施した。（年2回） ・授業と生活の関連アンケート結果は、3学期全学年の肯定的評価は67.1%であった。 * 2学期のアンケートが揃わず、教職員の意識を高めることができなかったことが最も大きな課題であった。 〔生徒指導の視点を取り入れた特別活動の充実〕 ○活動後の児童の振り返りを見取り、適時フィードバックでの意識変容 ・「みんなで何かをするのは楽しい」91.1%「学校が楽しい」84.7% ・異学年交流、保小交流を様々な方法で行った。 ・肯定的な振り返りのフィードバックを継続するとともに、行事等の取り組みの際に子どもたちへの価値づけを意識して働かした。 * 子どものアイデアを生かした活動の工夫が、学級や学校の行事の中に根付いてきた。 〔他者理解の取組・いじめの防止〕 ○いろいろな人の良さに気づき仲良くする ・アンケート肯定的評価95.8% ・夏季休業中に特別支援教育の研修や学期毎の個別の支援計画の加筆・修正などを踏まえ取り組んだ。	B	〔道徳教育の充実〕 ・全職員での取組を強く推し進めていく。 ・道徳授業と実生活の結びつきと保護者の関わりに対する取組を強化する。 〔生徒指導の視点を取り入れた特別活動の充実〕 ・話し合い活動への効果的な実践と取組の精選・価値づけとそのフィードバックをタイムリーに行う。 ・常に実践を振り返り改善していくことに、引き続き力を入れる。 〔他者理解の取組・いじめの防止〕 ・保護者への啓発を含め、特性のある児童への理解について、積極的な働きかけをしていく。 ・個々の児童のアンケート回答に目を向けて要因を探り、個別の指導に力を入れる。	・子どもたちは、学校が楽しく、授業も楽しくできていると思う。 ・いじめで学校に来られない児童がいないクラスづくりをお願いしたい。 ・人を思いやる大切さや協力して行動することの楽しさを感じていることが、世代間交流の時など色々な行事の時によくわかる。 ・子どもの主体性を重視し活動できているというのは、先生方の感性が優れているからだと思う。これからも一人一人の思いに沿いながら取組に期待する。	B
健康・体力	○たくましく生きるための健康と体力を育成する。	○生活リズムカードから見られる課題を基に目標を設定 ・学期ごとに向上する児童の割合70% ○アンケートで「できるようになった」「運動が楽しい」と回答する児童が増加する。 ○体力テスト総合評定向上 ・D,Eの児童8%以下	〔健康教育の推進〕 ①健康な体づくりに関心を持たせる取組 ・保健朝礼、健康祭り、掲示物での啓発 ②生活リズム強化週間の実施 ・課題を基に目標を設定し、家庭で生活改善に取り組む ・保護者からの返信をフィードバック 〔体力・運動能力向上〕 ①体育授業の改善 ・個々にめあてを持たせ、達成感を感じることのできる授業実践 ・水泳、器械運動、体づくり運動の充実 ②投げつける遊びに触れる環境づくり、全校でのジャックナイフストレッチの実施	〔健康教育の推進〕 ①保健朝礼学期に1～2回以上実施 ・保健指導実施各学年3回以上 ②学期ごとに向上する児童の割合が70%以上 ③各学年で教科や総合的な学習と関連づけた食育の新たな取組を実施 〔体力・運動能力向上〕 ①「できるようになった」「運動が楽しい」と回答する児童が学期ごとに増加する ②ソフトボール投げ、長座体前屈結果県平均と同等 体力テスト操業評定D,E8%以下	〔健康教育の推進〕 ○生活リズムカードから見られる課題を基に目標を設定 ・保健朝礼と保健指導は計画通り行えた。 ・保健朝礼と生活リズム強化週間の取組を連動させることで、保健委員会発信の取組とすることができた。個々でみると改善された児童も多いが、日常的なゲーム等の影響で改善がみられない児童がいる。結果、学期ごとに向上する児童の割合が目標の70%には届かず、睡眠、ゲームの時間に課題が残った。 〔体力・運動能力向上〕 ○アンケートで「できるようになった」「運動が楽しい」と回答する児童の増加 ・結果として「できるようになった」95.8%、「運動が楽しい」80.6%であったが、学期毎に向上させるといことはできず、目標達成はできていない。 ○体力テスト総合評定向上 ・D,Eの児童28.4%であった。1学期の数値が特に低かった2科目を2月に測定したが「ボール投げ」で28%、「長座体前屈」で39%の児童の記録が向上していない。	C	〔健康教育の推進〕 ・個人結果のレーザータートによる生活改善の取組を徹底させる。 ・課題の睡眠、ゲームの時間については、保護者との更なる連携が必要である。 〔体力・運動能力向上〕 ・体育の授業づくりについてさらに研修を深め、「できる・楽しい体育授業」を目指す。 ・日常的に運動に親しむ環境づくり等、体力向上のための取組を根本から見直すことが必要である。 ・運動量の確保と徒歩での登下校に対する意識を高め活性化させる。	・生活リズムを整えるという課題は永遠のテーマであり、改善は難しいと思うが、家庭との連携を密にし、ゲーム脳にならないよう早い段階で芽を摘んでほしい。 ・保護者が危機感を持って、テレビやゲームの時間を決めて長時間にならないよう指導しなければ改善されないと思う。 ・体力面を向上させる取組はすばらしいと思う。 ・取組はよくできている。各家庭との連携・保護者の協力も大切。登下校時の車の送迎の多さにびっくりする。 ・子どもたちの体力向上のために、地域にもっとスポーツクラブがあるとよい。	B
連携・協働	○地域や地域との関係機関と連携・協働してつなげるべき力をつける。	○地域を舞台にした学習の全学年での実施 ・「自分の住んでいる地域が好き」80% ○幼児教育から学び、スタートカリキュラムの意義と内容への理解を深める。 ・全職員協議により、次年度スタートカリキュラムを作成	〔地域との連携・協働〕 ①地域に題材を求めた学習の工夫、開発 ・総合的な学習、社会科等の実践 ②学校支援本部事業の積極的な活用 〔保小連携〕 ①スタートカリキュラムの理解と実施、見直し ②保小教職員間の連携 ③園児、児童の日常的な交流の実施	〔地域との連携・協働〕 ①「自分の住んでいる地域が好き」80%以上 ②「地域の人、もの、ことを活用した学習」の全学年での実施 ③学校支援地域本部事業の全学年での活用 〔保小連携〕 ①次年度3週分のスタートカリキュラム作成 ②研究保育、保育体験研修4名以上参加 ③全学年での交流活動の実施	〔地域との連携・協働〕 ○地域を舞台にした学習の全学年での実施 ・アンケート数値も97.5%に向上 ・山の学習に全学年で取り組み、生活科・総合的な学習の時間の活動を広げることができた。 ・地域に題材を求めたり、ゲストティーチャーを招いて学習したりすることが日常の取組となってきた。 〔保小連携〕 ○幼児教育から学び、スタートカリキュラムの意義と内容への理解を深める。 ・交流、連携の実績を計画以上に積み上げることができ、保小・小中の連携のパイプは確実に太く確かになってきている。 ・園児と子ども同士の交流だけでなく、教員の保育士体験、教職員の保育行事体験等から学ぶことができた。 ・次年度スタートカリキュラムの見直し作成を行っている。	A	〔地域との連携・協働〕 ・引き続き、全学年で取り組み、生活科・総合的な学習の時間の活動を広げていく。 ・地域に題材を求めるとやゲストティーチャーの招聘、交流活動等を学習につなげた主体的な地域連携の取組とする。 〔保小連携〕 ・発達や学びの連続性を踏まえた接続にする。 ・組織的な体制づくりを継続していく。 ・就学に対する不安感や戸惑いを解消する取組を継続して行っていく。 ・継続のためのチェックと評価を計画的に行う。	・各学年で地域のことにについてよく学習し、色々なことに取り組んでいると思う。 ・子どもたちが積極的に地域に入って、学習しようとしていると思う。 ・色々な行事や交流活動での取組がよくできている。地域の学習もよくできている。このまま継続してほしい。 ・自分の町が好きと言える子どもから、大人になって自分の町に帰りたいと思う子どもになってほしい。	A
安全危機管理	○自分の命を守りきる力をつける。	○児童の生活安全、防災に対する意識が向上し、家庭で話題に上るようになる。 ・アンケート平均85%以上	〔防災・生活安全教育〕 ①防災、生活安全の訓練、学習 ・授業、訓練、出前授業の計画的な実施 ②児童の防災意識の高まりを保護者への啓発につなげる ・参観日の防災授業、引き渡し訓練の実施 ③安全な学校生活を送るための働きかけ	〔防災・生活安全教育〕 ①防災、安全授業6回以上実施 出前授業の全学年での実施 ②引き渡し訓練参加家庭70%以上 児童防災アンケート85%以上 ③校内安全点検学期1回実施 児童生活安全アンケート85%	〔防災・生活安全教育〕 ○児童の生活安全、防災に対する意識が向上し、家庭で話題に上るようになる。 ・出前授業は計画通りに実施できた。避難訓練は天候の関係で予定どおりではないが実施できた。 ・参観日の防災学習・引き渡し訓練は、96.4%の保護者が参加した。 ・避難訓練は毎回バージョンアップを図り、教職員にも予告なしで傷病者がでた設定の訓練も行った。児童の対応力は向上している。 ・生活安全アンケートは85.7%で目標値に届いているが、防災学習アンケートについては71.0%で目標値に届いていない。	C	〔防災・生活安全教育〕 ・アンケート数値が低い項目への重点的な働きかけをしていく。 ・防災学習の一層の時間確保と保護者への啓発のために、来年度は2ヶ月に1回の防災学習の日を設ける。 ・引き続き、訓練のバージョンアップを図っていく。	・学校内での防災学習は日ごろからよくできていると思う。引き続きお願いしたい。 ・参観日の防災学習への参加率が多いので、地域の防災意識の向上にも期待している。 ・意識は高まっていると思う。繰り返し訓練をして体に身につけてほしい。 ・登下校時の地域と連携した訓練も行えるとよい。	B